

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1987
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.27 (1987. )
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000027-0122">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000027-0122</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 学事報告

## 学位授与者氏名及び論文題目

修士(昭和61年3月)

社会学修士(社会学専攻のもの)

第529号 増子由美子 乳幼児養育期の危機と保育所  
一家族ストレス論の視点から

第530号 井上 良介 行為と自我  
—シンボリックインタラクションズムにおける自我論の検討—

第531号 岩熊 史朗 WAIを用いた自我の研究  
—SELF IMAGE の相互関連性について—

第532号 岩田 若子 社会的状況における非言語的自己表出のパターン  
—服装によるセルフ・プレゼンテーションを中心にして—

第533号 桑原 武夫 センセーション・シーキングからみた消費者行動の分析  
—刺激、新奇さを求める消費者像の実証—

第534号 澤井 敦 マンハイムとウェーバー

第535号 島田 敏夫 問題解決場面に於ける相互作用

第536号 高尾尚二郎 「生活の質」における主観的諸要素  
—自己概念によるその測定—

第537号 高田 峰夫 地域社会における講  
一千葉県木更津市金田中島における出羽三山講—

第538号 高橋 潔 「労働生活の質」(QWL)に関する行動科学的分析  
—職務諸特性とその関連構造—

第539号 竹内 治彦 私人と自我主体

第540号 西村麻由美 WAIを用いたSELF IMAGE の研究

第541号 萬谷 陽子 深層からの人間事象考察

第542号 三浦 山理 生態学的心理学再考  
—計画都市の評価をめぐって—

第543号 宮城 薫 OBJECTIVE SELF-AWARE  
な状態のもとでの自己開示について

第544号 淵上 恵子 〈秩序〉と〈混沌〉の弁証法における神聖概念の諸相

第545号 吉永美也子 沖縄民俗憑依の発生と病気観

第546号 渡辺真一郎 職場のメンタルヘルス不全の第1次予防に関する研究

文学修士(心理学専攻のもの)

第547号 稲川健太郎 遺伝性ミエリン形成不全マウス(SHIVERER 及びその対立遺伝子型 MYELIN DEFICIENT)の行動解析

第548号 村上 文子 オペラント行動に影響を及ぼす社会的な変数

第549号 小林廉一郎 レスpons・トボグラフィー—ハトのオペラント条件づけにおける反応形式—

第550号 寺田 雅英 迷路におけるラットの形の触覚弁別  
ラットの迷路内行動のコントロールに向けて

教育学修士(教育学専攻のもの)

第551号 伊藤真里子 日本近代における標準語化  
—話し言葉を中心にして—

第552号 村上 裕恵 抑うつ傾向と原因帰属様式に関する研究

第553号 佐藤 達朗 美と魂  
—審美場の心理の“認識論的二重操作”的考察

第554号 真壁 宏幹 「表現と理解に関する一考察  
一生の哲学によるアプローチ—